

# 慶良間諸島屋嘉比島周辺の ヤギ類相

岩瀬 文人  
(財)海中公園センター  
八重山海中公園研究所

Gorgonarians around Yakabi Island, Kerama Islands

F. Iwase

## はじめに

ヤギ類は刺胞動物門花虫綱八放サンゴ亜綱に属し、アカサンゴやモモイロサンゴなどの貴重サンゴを含む動物群である。多くの種が水深 15m 以深の海底に生息しており、近年のダイビングブームにより目に触れる機会が増えたとはいえ、貴重サンゴを除いて一般に人生との関わりがほとんどない動物群であるため人々の関心は薄く、過去、現在を通して研究者の数は非常に限られている。このためヤギ類の分布や生態に関する知見は極めて乏しく、琉球列島海域のヤギ類相について詳細な検討がなされている文献は八重山群島西表島西部の崎山湾における調査報告書(岩瀬 1990)が見られるのみである。

今回、世界自然保護基金日本委員会(WWFJ)の南西諸島自然保護特別事業「屋嘉比島の動物を中心とした生態系調査」の一環として、慶良間諸島の北西に位置する無人島「屋嘉比島」周辺海域のヤギ類相を調査する機会を得たので報告する。

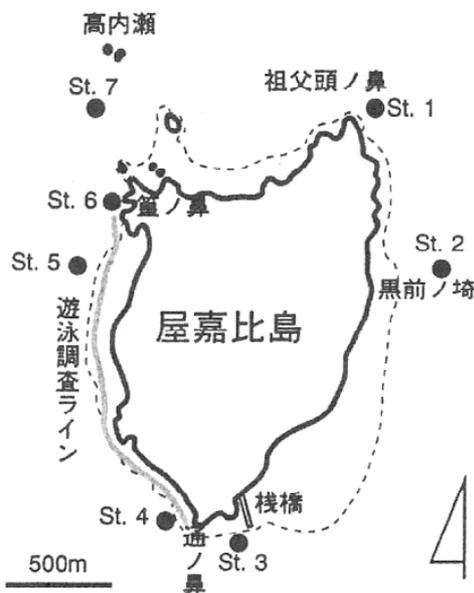


図 1. 屋嘉比島の調査位置図

## 調査方法

現地調査は 1995 年 5 月 26~29 日及び 1996 年 10 月 10~12 日に、屋嘉比島周辺の 7ヶ所で合計 10 回約 9 時間の SCUBA 潜水、及び西岸礁縁部で水面遊泳及び素潜りによって行った(図 1)。

SCUBA 潜水では各調査地点において等深線を横断する方向に遊泳してできるだけ広い水深範囲を探索し、水面遊泳及び素潜りでは礁原上及び礁縁に生息する種の探索を行った。ヤギ類を発見したときには、写真撮影を行うと共にヤギ類の生息状況、水深などを記録し、群体の一部又は全部を採集して固定標本とし、研究室において解剖学的手法により同定を行った。なお、本報告にあたって用いたヤギ類の分類体系は Bayer (1981) に基づいており、従来我が国で用いられてきた分類体系(岡田他 1973、西村他 1992 など)とは若干異なる。

## 結果及び考察

現地調査において採集されたヤギ類は 56 群体で、7 科 18 属 39 種にわたっている。表 1 に出現した種と調査地点毎の出現状況を示す。各調査地点で観察されたヤギ類の成育状況は以下の通りである。

### ・St. 1 祖父頭ノ鼻

なだらかな傾斜の礁斜面で、水深 20m 付近にリュウキュウイソバナの群生が見られる。3 属 4 種が出現し、群体数は少なくて礁の間隙にわずかに見られるのみ。

### ・St. 2 黒前ノ埼沖

屋嘉比島と伊积迦积島、阿嘉島との水道部にあたり、潮流が早い。急傾斜の礁斜面が水深 35m 付近で終わった先は平坦な砂地に南北方向に細長いマウン

ド状の礁が連なっている。礁斜面の水深 30m 以深、及びマウンド状の礁上には、大きなものでは直径 1m を超える大型のヒラヤギ類 (ウチワヒラヤギ、*Subergorgia ornata*、オウギヒラヤギ) をはじめとする 8 属 11 種が出現し、多数のヤギ類が一面に繁茂して、今回の調査地点中最もヤギ類の多い地点である。

・ St. 3 棧橋前

起伏の大きい礁外縁からなだらかな礁斜面が続いている。4 属 5 種が出現したが、量的には調査地点中最もヤギ類の少ない地点である。

・ St. 4 通ノ鼻西

起伏の大きい礁外縁から St. 3 よりは急な傾斜の礁斜面が続いている。7 属 9 種が出現したが、生息密度は低い。

・ St. 5 篁ノ鼻南

やや傾斜の急な礁斜面で、浅所は波浪が強いせいもヤギ類は水深 20m 以深からのみ出現した。7 属 11 種が出現したが、生息密度は低い。

・ St. 6 篁ノ鼻西

水深 20m 付近までは起伏が大きく、ヤギ類は礁嶺の側壁やオーバーハングの下面などに数多く生育している。水深 20m 以深のやや急傾斜の斜面には大小の礁があり、生息密度は高くないが、礁上にヤギ類が散在している。9 属 15 種が出現し、今回の調査地点中では St. 2 (黒前ノ埼沖) に次いでヤギ類の量が多い地点である。

・ St. 7 高内瀬南

St. 1 と似たなだらかな礁斜面で、礁斜面の上部にセキコクヤギが見られるが、群生してはいない。5 属 5 種が出現したが、生息密度は低い。

・ 遊泳調査ライン (篁ノ鼻 ~ 通ノ鼻)

屋嘉比島北西部の篁ノ鼻から南端の通ノ鼻まで礁原及び礁縁に生息するヤギ類を探索したが、ヤギ類の生息は認められなかった。

以上の調査結果から屋嘉比島周辺のヤギ類層を概

観する。

屋嘉比島の周囲を縁取る裾礁は、最も発達している南東岸で幅およそ 300m、礁原は非常に平らで干潮時には干出し、礁池は形成されない。そのため八重山群島の礁池 (湖) 内で普通に見られるリュウキュウイソバナやリュウキュウミゾヤギの群生、マキノハヤギやムレヤギなどの種は屋嘉比島ではほとんど見られない。

島の北 ~ 西 ~ 南岸は外洋に面しており、礁外縁から水深 20 ~ 30m 付近まで起伏に富んだ海底が続く、その外側は大小の礁が点在する砂礫底のなだらかな斜面になっている。ヤギ類は主として水深 20 ~ 30m 以浅の礁嶺壁面に生息しているものの、生息密度は一般に低い。北西に突出した篁ノ鼻周辺は礁斜面が急傾斜であるためか、St. 5 及び St. 6 ではそれぞれ 11 種及び 15 種と多種のヤギ類の生息が見られ、St. 6 では生息密度も高い。

一方東岸は伊积迦积島、阿嘉島との水道部にあたり、急傾斜の礁斜面が水深 35m 付近で終わった先は平坦な砂地に南北方向に細長いマウンド状の礁が連なっている。この地形から南北方向の強い潮流が常時流れていることがわかり、調査時にも強い潮流があった。水深が深いことと慶良間諸島の他の島々により波浪がさえぎられるために、潮通しが良くて波浪の影響が少ないというヤギ類の生育に適した条件が創出されている。そのためヒラヤギ属の巨大な群体をはじめ多種多数のヤギ類が生息しており、St. 2 で 11 種の生息が確認できた。水深が深いことと潮流が早いことによって調査範囲が限定されていたことを考慮すると、調査を重ねればさらに多くの種が確認できるものと思われる。

なお、リュウキュウイソバナは岩瀬 (1986, 1990)、岩瀬他 (1990)、西村他 (1992) で筆者が *Wrightella tongaensis* と同定しているが、これは同定間違いで、正しくはイソバナ属 *Melithaea* の一種である。

謝 辞

最後に、調査の支援をいただいた財団法人世界自然保護基金日本委員会、調査に参加する機会を与えていただいた亀崎直樹氏(京都大学) 調査に協力いただいた平手康市氏(沖縄県) 下池和幸氏、岩尾研二氏をはじめ阿嘉島臨海研究所の皆様に御礼申し上げます。

引用文献

Bayer, F. M. 1981. Key to the genera of *Octocorallia* exclusive of Pennatulacea (Coelenterata: Anthozoa), with diagnoses of new taxa. Proc. Biol. Soc. Wash, 94(3):902-947.

岩瀬文人 1986. ヤギの仲間. 「フィールド図鑑・海岸動物」(益田他編): 49-58. 東海大学出版会, 東京.

岩瀬・内田・野村・福田・御前 1990. 草木型動物. 「沖縄海中生物図鑑 11」: 176-195. サザンプレス, 沖縄.

岩瀬文人 1990. 崎山湾のヤギ類. 崎山湾自然環境保全地域調査報告書, 環境庁自然保護局: 161-171.

西村三郎, 他 1992. 原色検索日本海岸動物図鑑[ ]. 保育社, 大阪. 425pp.

岡田 要, 他 1973. 新日本動物図鑑[上]. 第四版. 北隆館. 東京. 679pp.

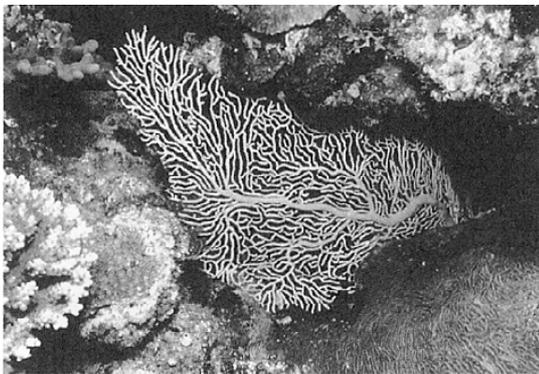


写真 1.  
*Subergorgia  
verriculata*  
オキヒラヤギ  
(St. 1)

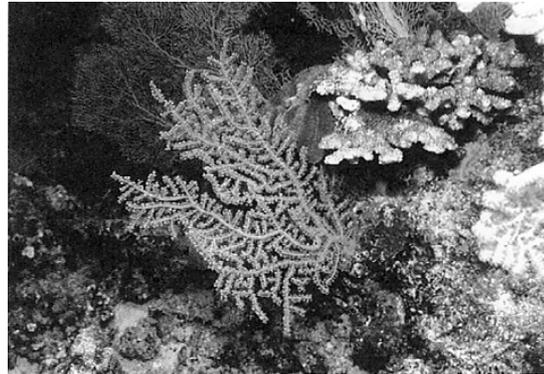


写真 2.  
*Astrogorgia  
rubra*  
(St. 2)

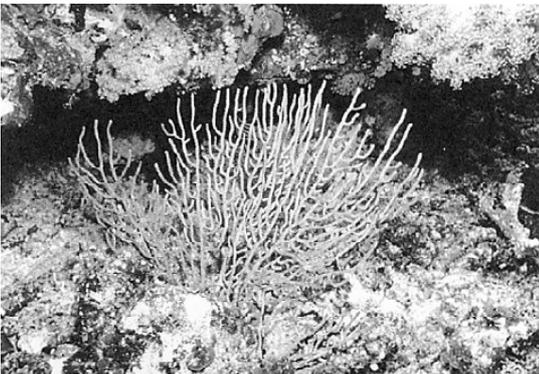


写真 3.  
*Echinogorgia  
asper*  
(St. 2)

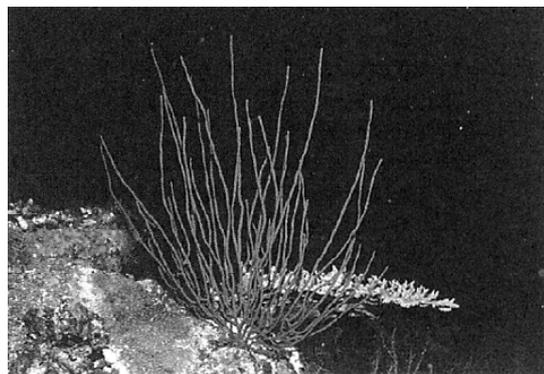


写真 4.  
*Menella  
spinifera*  
スタレアカヤギ  
(St. 4)

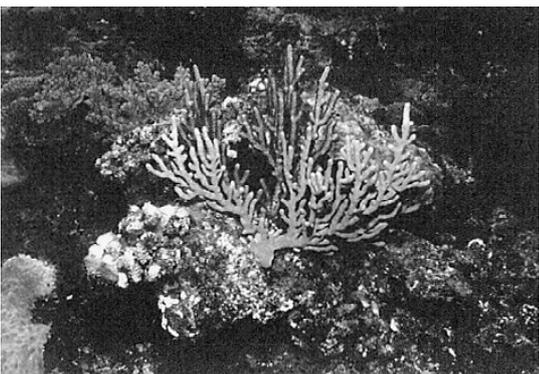


写真 5.  
*Isis hippuris*  
セキコヤギ  
(St. 7)

表 1. 屋嘉比島周辺で採集されたヤギ類

	調 査 地 点						
	1	2	3	4	5	6	7
Order Alcyonacea ウミトサカ目							
Suborder Scleraxonia 石軸亜目							
Family Subergorgiidae ヒラヤギ科							
1 <i>Subergorgia appressa</i> Nutting				○	○		
2 <i>S. mollis</i> (Nutting) ウチワヒラヤギ		○					
3 <i>S. ornata</i> Thomson & Simpson		○			○		
4 <i>S. reticulata</i> (Ellis & Solander) アミメヒラヤギ					○	○	
5 <i>S. verriculata</i> (Esper) オウギヒラヤギ	○	○				○	
Family Melithaeidae インバナ科							
6 <i>Melithaea</i> sp. A リュウキュウインバナ	○			○		○	
7 <i>M. flabellifera</i> Kü kenthal インバナ	○		○		○	○	
8 <i>M.</i> sp. C				○			
9 <i>M.</i> sp. D				○			
10 <i>M.</i> sp. E			○				
11 <i>Wrightella</i> sp.			○		○		○
Suborder Holaxonia 角軸亜目							
Family Acanthogorgiidae トゲヤギ科							
12 <i>Acalycigorgia</i> sp. A					○		○
13 <i>A.</i> sp. B		○					
14 <i>A.</i> sp. C					○	○	
15 <i>A.</i> sp. D						○	
16 <i>Acanthogorgia</i> sp.				○			
17 <i>Muricella</i> sp. A						○	
18 <i>M.</i> sp. B			○			○	○
19 <i>M.</i> sp. D				○			
20 <i>Versluysia</i> sp.						○	
Family Plexauridae ホソヤギ科							
Subfamily Plexaurinae ホソヤギ亜科							
21 <i>Euplexaura</i> sp. A						○	
22 <i>E.</i> sp. B						○	
23 <i>E.</i> sp. D		○					
Subfamily Stenogorgiidae							
24 <i>Menella spinifera</i> (Kü kenthal) スダレアカヤギ				○			
25 <i>Astrogorgia rubra</i> Thomson & Henderson	○	○					
26 <i>Bebryce boninensis</i> Aurivillius					○		
27 <i>Echinogorgia asper</i> (Moroff)		○					
28 <i>E.</i> sp.		○					
29 <i>Villogorgia</i> sp. A		○					
30 <i>V.</i> sp. B							○
31 <i>V.</i> sp. C				○			
Family Gorgoniidae ウチワヤギ科							
32 <i>Rumphella aggregata</i> (Nutting) ムレヤギ					○	○	
Family Ellicellidae ムチヤギ科							
33 <i>Junceella fragiris</i> (Ridley) リュウキュウミゾヤギ			○			○	
34 <i>J.</i> sp.		○					
35 <i>Toeplitzella</i> cf. <i>laevis</i>		○				○	
36 <i>T.</i> sp.				○		○	
37 <i>Verrucella</i> sp. A					○		
38 <i>V.</i> sp. B					○		
Family Isididae トクササンゴ科							
Subfamily Isidinae トクササンゴ亜科							
39 <i>Isis hippuris</i> Linné セキコクヤギ							○